

[様式2 (汚染水処理対策委員会に報告し、一般公開となるものです)]

提案書	
技術分野	⑤地下水流入抑制の敷地管理-(1)敷地山側からの地下水量を低減する提案
提案件名	海拔約35mエリアに遮水壁を設置する技術に関する提案
提案者	前田建設工業株式会社

1. 技術等の概要

海拔約35mエリアに連続地中壁により遮水壁を設置し、地下水の流入を防止する。加えて、ベントナイト混合土によるフェーシング（別途提案）を実施し、雨水の浸入を防ぐ。

(特徴)

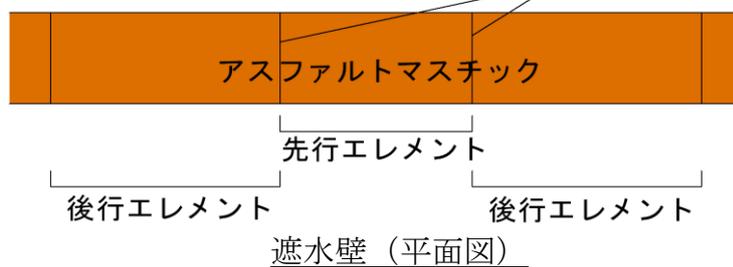
遮水壁の構造は遮水性に優れたものとして小型の施工機械を利用したアスファルトマスチックによる遮水壁を提案する。以下にその特徴を示す。

- (1)アスファルトマスチックは、変形追随性を有しており、遮水性に優れた材料である。
- (2)施工機械が小型であることと、芯材や鉄筋等の重量物を扱う必要がないため、作業エリアを大幅に縮小できる。
- (3)鋼材を使用しないため、工期、コストの縮減が図れる。
- (4)コンクリート等の材料を用いないため、養生期間を短縮でき、工程の短縮が図れる。
- (5)エレメント間の打ち継ぎ面は、ジェット洗浄により処理する。また、メッシュシートにより端面を保護することも可能。



小型地中連続壁掘削機

後行エレメント打設前に
打ち継ぎ面はジェット洗浄等により洗浄



(性能)

遮水壁をアスファルトマスチックで構築する。鋼材などが不要で、鋼材間の継手がないため、遮水性に優れる。

2. 備考

- ・開発・実用化の状況（国内外の現場や他産業での実績例、実用化見込み時期を含む）
提案した構造の遮水壁については実績はないが、各要素技術の施工実績はあるため、実用化は早期可能である。
- ・開発・実用化に向けた課題・留意点
アスファルトマスチックの耐放射性を検証する必要がある。また、先行エレメントと後行エレメントのアスファルトマスチックの密着性（遮水性）を検証する必要がある。
- ・その他（特許等を保有している場合の参照情報等）
特になし